

講師

鹿毛 美香

## ■ 学歴

---

1. 久留米大学大学院 医学研究科修士課程 環境医学講座（医科学修士）修了

## ■ 学位

---

1. 2008年 修士（医科学）

## ■ 研究分野

---

1. 公衆衛生看護学
2. 産業保健学
3. 労働衛生学

## ■ 研究キーワード

---

1. 労働と健康
2. 産業保健活動
3. 保健師教育

## ■ 研究課題

---

1. 労働者の雇用不安やワークストレスを中心にして労働と健康の関連について
2. 産業保健活動展開に必要な能力等を含め現任教育のあり方や学士レベルで備えるべき能力

## ■ 担当授業科目

---

1. 社会保障概説（後期）（看護学科）
2. 早期看護実習（前期）（看護学科）
3. 健康教育論（前期）（看護学科）
4. 疫学（前期）（看護学科）
5. 公衆衛生看護活動演習（前期）（看護学科）
6. 公衆衛生看護学実習（通年）（看護学科）
7. 看護総合演習（通年）（看護学科）
8. 看護総合実習（通年）（看護学科）

## ■ 授業を行う上で工夫した事項

---

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

- |    |   |
|----|---|
| 1. | 授業科目名【社会保障概説】   |
|    | 1. 人の生活が安定していくように、国がどのような社会保障および施策で保障しようとしているか、ライフステージ毎に、事例を通して概要を捉えることができるように努めた。特に施策や制度は、国の課題背景があり、それを解決するために整えられるため、背景と施策や制度の流 |

	<p>れを連動して講義を組み立て資料化することで意識づけた。</p> <p>2. 基本的に講義資料は、1枚(A3)で作成し、制度の構造、支援の流れ等が体系的にイメージできるよう工夫した。</p>
2.	<p><b>授業科目名【早期看護実習】</b></p> <p>1. 1年生対象のアーリー・エクスポージャーの要素を含んだ実習であるため、病院施設と高齢者施設、訪問看護ステーションを体験できるように実習を組んでいる。そこで生じた看護に対する気づきや発見を学内実習日に既習の知識等で意味づけできるように科目責任者と時間の配分等を検討した。</p> <p>2. 患者や療養者を生活者(療養環境を含む)として理解し、日常生活行動の視点から看護活動を体験する過程で、初学者としての自己の傾向や在り様に気づくことを目指している。実習では、実習指導者とコンタクトをとり、実習指導の方向性を検討・統一する等環境調整に努めた。</p> <p>3. 学生の気づきや発見から学びにつなげることができるよう、既習の講義内容を考慮した発問をし、学生のアセスメントの視点を広げ、学習効果につなげた。</p>
3.	<p><b>授業科目名【健康教育論】</b></p> <p>1. 科目責任者と共に、講義内容の連動性や学生の学習到達状況を踏まえ、講義組み立てを行った。組み立て時には、健康に関する行動変容と維持に関する理論の選定や時間数の配分、協同学習の活用など検討した。</p> <p>2. 健康に関する行動変容と維持に関する理論を理解し活用できるように、図式や画像、動画を用い学生が学習内容を視覚的に捉えることができるようにした。また、事例を提示することで看護活動への応用をより具体的に実感できるように努めた。事例については、国家試験の出題傾向および社会動向を踏まえ、対象者を実践的に捉えられるように工夫した。</p> <p>3. 協同学習を活用し、学生個人が他人の価値観や考え方を知り、多様な対象者の存在を意識できるように努め、学生個人の施行の深まりを支援できるようにした。</p>
4.	<p><b>授業科目名【疫学】</b></p> <p>1. 保健師(主に行政・産業)が実践で活用頻度が高い調査方法や分析方法、また、国家試験の出題傾向および社会動向を踏まえ、ペーパーシュミレーションを取り入れた。</p> <p>2. 授業資料の1枚目には、毎回、新人保健師の疑問と先輩保健師の応答をイラスト形式で載せ、今から行う学習が実際の現場でどのような疑問の解決へとつながるのかイメージできるように試みた。</p> <p>3. 少人数の協同学習を取り入れ、学生が保健師に求められる能力の一つである「協働する力」を獲得できるように試み、グループの構成員を学習内容の難易度に合わせ変更した。</p> <p>4. 保健師課程以外の学生も受講できるため、看護師として働く中で今回の演習内容が役立つのか等も提示しながら、現場との連動を行った。</p>
5.	<p><b>授業科目名【公衆衛生看護活動演習】</b></p> <p>1. 科目責任者と共に、講義・演習の連動性や学生の学習到達状況を踏まえ、演習組み立てを行った。演習組み立て時には、演習目標の設定、時間数の配分、協同学習の活用など検討した。</p> <p>2. 演習時は必ず協同学習を取り入れ、学生が保健師に求められる能力の一つである「協働する力」を獲得できるようにし、協同学習を実習メンバーで行うことで、実習へ繋げるように試みた。</p> <p>3. 家庭訪問技術に関しては、実習で必ず経験する新生児～4ヵ月児までの母子への訪問を題材とし、母子手帳の交付時の保健指導から電話によるアポイント、次回の訪問の予約までと一連の流</p>

	<p>れをロールプレイ形式で行うことで、この科目の学習と実習との連動を図った。</p> <p>4. 母子以外の家庭訪問および保健指導事例に関しては、現場で想定される多問題ケースや困難ケースを題材とし、解決方法・支援方法が一つではないことを意識づけさせるよう試みた。これは、最近の学生が正誤にこだわることを打破したいための策である。</p> <p>5. 健康教育（集団）技術では、地区診断技術と連動させ、学生が実習を行う地域の健康課題から健康教育のテーマを決めるなど、何のために健康教育をするのかを意識づけさせ、教育スキルだけを学習するのではなく、保健活動の一部であることを踏まえた教育ができるよう演習組み立てを行った。</p> <p>6. 地区診断技術では、保健師に必要な情報収集能力を獲得できるよう演習に必要な情報については、学生が実習を行う地域を題材とし、この科目の学習と実習が連動するよう試みた。</p> <p>7. 地区診断を進めるにあたり、教員側から指標等の提示を極力せず、学生の疑問・興味関心から思考を広げ、深めていくように努めた。</p>
6.	<p>授業科目名【公衆衛生看護学実習】</p> <p>1. 実習指導者と密にコンタクトをとり、学生の学習到達状況や今後の実習指導の方向性を検討・統一する等学生が実習目標に到達できるよう環境調整に努めた。</p> <p>2. 学生の実習目標の到達進度に合わせ、発問内容や提示文献を選択し、個別の学習効果を上げる工夫をした。</p> <p>3. 学生の捉える実習場面（看護現象）を共有し、実習場面を再構成しやすいようにし、学生がその実習場面から導き出した疑問・学びをさらに専門職としての視点や広がりをつけ実習目標に到達できるよう努めた。</p> <p>4. 抽象的な事柄を説明する際は、学生自身に身近な具体例を加え、実習指導者自ら考えや体験を語っていただけるよう調整し、学生がイメージしやすいように心がけた。</p> <p>5. 講義時に作成した教科書・ワークシートを実習時には学生に携帯させ、知識の振り返り先を明確にした。</p>
7.	<p>授業科目名【看護総合演習・看護総合演習（行政・産業）】</p> <p>1. すべての看護各論実習を修了した学生が、自身の疑問や課題を明確にし、実習と連動できるように指導した。そのために、演習では、地域保健や産業看護の理解を深めるために文献検討を行いレポートとしてまとめ、それと併せて実習で必要となる知識技術を振り返る機会を設けた。また、産業看護が提供される場面で初めて学生は実習するため、個々の学びを補うことを目的に、演習に関しては2グループ（3～4名/グループ）での集団学習とした。</p> <p>2. 実習終了後は、集団学習ではなく、各自の学びを基に作成していた事前レポートを追加修正し、課題解決に向けるようにした。また、ゼミの中で発表し、他学生と共有化することで思考の広がり求めた。</p> <p>3. 看護総合実習は、最終学年での看護を統合する実習であるため、学生自身が臨地指導者と実習内容を検討し、実習目標を達成できるように記録用紙や評価指標も学生主体で検討できるように、学生達の思考に合わせて提示する資料や文献等を選んだ。</p>
8.	<p>授業科目名【その他】</p> <p>1. 自分自身が看護職として、学生のロールモデルになるよう自己研鑽に努めた。</p>

## ■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2003年4月～現在に至る	日本産業衛生学会	代議員（2008年11月～現在に至る） 倫理審査委員（2018年1月～現在に至る）
2.	2003年4月～現在に至る	日本産業衛生学会産業看護部会	産業保健看護専門家制度委員会：研修内容認定部会実務委員（2021年6月～現在に至る）
3.	2003年4月～現在に至る	日本産業衛生学会 九州地方会産業看護部会	役員幹事：広報担当（2006年4月～）
4.	2008年4月～現在に至る	日本公衆衛生学会会	
4.	2015年5月～現在に至る	日本公衆衛生看護学会	

## ■ 研究業績等に関する事項（2023年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）					
1.	特になし				
2.					
（学術論文）					
1.	特になし				
2.					
（翻訳）					
1.	特になし				
2.					
（学会発表）					
1.	特になし				
2.					

## ■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（1）共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
1.	特になし			
2.				
（2）個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額（単位：円）	備考
1.	特になし			
2.				

## ■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2018年1月～現在に至る	(公社)日本産業衛生学会 倫理審査委員会 ・学会員から研究等の遂行に当たり倫理的な要件を満たしているかどうか協議する。また、審査を受けるまでの相談等を受ける。	倫理審査委員
2.	2021年6月～現在に至る	(公社)日本産業衛生学会産業看護部会 産業保健看護専門家制度委員会 ・産業保健看護専門家制度における研修認定審査を担当し、各地方会や学術集会で行われる研修内容が産業保健看護専門家制度の必要単位の研修内容として要件を満たしているか検討する	実務委員
3.	2006年4月～現在に至る	(公社)日本産業衛生学会九州地方会産業看護部会 ・九州地方にて就業する産業看護職に対する研究会および研修会を開催する等、現任教育に努める。また、役員として現場の看護職からの相談等を受ける。 ・産業看護部会本部(全国)と協働し、産業看護職に関する法改正等がある場合は、現場より意見を集約する。	役員幹事
4.	2017年1月～現在に至る	福岡県医師会 外国人看護師候補者資格修得支援事業 ・インドネシア現地講師(2～3週間)および国内講師(5～7日間) 科目:社会保障含む看護全般	講師

## ■ 学内における活動等(役職、委員、学生支援など)

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023年4月～2024年3月	学生募集委員	
2.	2022年4月～2024年3月	1年生アドバイザー	
3.	2022年4月～2024年3月	看護学科プロジェクトメンバー	
4.	2012年5月～現在に至る	生協理事	